

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2020年12月 9日

新備広コンクリート株式会社
 広島県府中市高木町1120番地
 TEL : 0847-45-5025
 FAX : 0847-45-5026

配合計画者名 弓戸 淳由

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月20日 ・ 9月21日～11月30日 (左記以外の期間は備考欄に記述)
コンクリートの打込み箇所	(標準配合)

配 合 の 設 計 条 件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	B B
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A —
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	— °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	— kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	— 日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m ³
	空気量	— %		流動化後のスランプ増大量	— cm

使 用 材 料									
セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—	
混和材①	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—	
混和材②	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—	
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
				試験方法					
細骨材	①	砕砂	広島県府中市河佐町神谷	A 化学法	5mm以下	2.80	—	2.71	3.0±2.0
骨材	②	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	③	—	—	—	—	—	—	—	—
骨材	①	砕石 2010	広島県府中市河佐町神谷	A 化学法	20mm～10mm	7.00	—	2.83	1.0±1.0
骨材	②	砕石 1005	広島県府中市河佐町神谷	A 化学法	10mm～5mm	5.95	—	2.83	1.0±1.0
骨材	③	砕石 4020	広島県府中市河佐町神谷	A 化学法	40mm～20mm	7.95	—	2.83	1.0±1.0
骨材	④	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	マスターフロー [®] 15L		種類	AE減水剤(標準形I種)			Na ₂ Oeq %	1.2
混和剤②	製品名	—		種類	—			Na ₂ Oeq %	—
混和剤③	製品名	—		種類	—			Na ₂ Oeq %	—
細骨材の塩化物量	①0.00%			水の区分	回収水・上水道水以外の水	目標スラッグ固形分率	— %		
回収骨材の使用方法	細骨材	—			粗骨材	— 安定化スラッグ水の使用の有・無			

配 合 表 kg/m ³													
セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	—	—	157	881	—	—	325	217	542	—	2.20	—	—
水セメント比	57 %			水結合材比	— %				細骨材率	45.9 %			

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。骨材混合比(質量混合) 粗骨材①:②:③ 30.0:20.0:50.0

修正標準配合として次に示す適用期間の間は混和剤の単位量のみ変更します。

[夏期] 6月21日～9月20日 : 標準配合に対し、AE減水剤 +20%、高性能AE減水剤 +15%

[冬期] 12月1日～3月20日 : 標準配合に対し、AE減水剤 -20%、高性能AE減水剤 -15%

配合計算書

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		24	8	40	B B
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A —
指定事項 (任意)	骨材の呼び強度反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	— °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	— kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保證する材齢	— 日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m ³
	空気量	— %		流動化後のスランプ増大量	— cm

(1) 変動係数 (v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度 (m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm²

(3) 水セメント比 (W/C) W/C = 57 %

$$m = -15.2 + 25.8 \times C/W$$

$$W/C = 25.8 \div (30.0 + 15.2) \times 100 = 57 \%$$

(4) 単位水量 (W) 当工場の実績により W = 157 kg/m³

(5) 単位セメント量 (C) C = 275 kg/m³

$$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57 \times 100 = 275$$

$$C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ L/m}^3$$

(6) 空気量 (A) A = 45 L/m³

$$A = 4.5 \% \times 1000 = 45$$

(7) 細骨材率 (s/a) 当工場の実績により s/a = 45.9 %

(8) 単位細骨材量 (S) S = 881 kg/m³

$$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 708 \times 45.9 \% = 325$$

$$S = S_v \times \text{表乾密度} = 325 \times 2.71 = 881$$

(9) 単位粗骨材量 (G) G = 1084 kg/m³

$$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 617 = 383$$

$$G = G_v \times \text{表乾密度} = 383 \times 2.83 = 1084$$

$$G_1 = G \times 30.0 \% = 325 \text{ kg/m}^3$$

$$G_2 = G \times 20.0 \% = 217 \text{ kg/m}^3$$

$$G_3 = G \times 50.0 \% = 542 \text{ kg/m}^3$$

(10) 単位混和剤量 (Ad) Ad = 2.20 kg/m³

$$Ad = C \times \text{添加率} = 275 \times 0.80 \% = 2.20$$

配 合 表 kg/m³

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	—	—	157	881	—	—	325	217	542	—	2.20	—	—

水セメント比 57 % 細骨材率 45.9 % 骨材混合比 (質量混合) 粗骨材①:②:③ 30.0:20.0:50.0

備考